

鰹節搾りかすの鶏用飼料への利用試験を実施中

鶏の飼料原料は約90%が輸入品であり、近年の価格高騰が養鶏農家の経営を圧迫しています。特にここ数年は、タンパク質供給源となる魚粉価格の上昇が大きく、代替となる安価なタンパク質原料が求められています。

そこで当センターでは、魚粉の代替として「鰹節出汁搾りかす(以下出汁かす)」に着目し、簡易かつ安価に飼料化する技術の研究を進めています。

今年度は、実験室レベルで出汁かすを安価に脱水・粉碎する加工方法を検討しており、採食可能な形状について京地どりを用いた評価を行っています。また、加工後の保存期間については、一般細菌増殖の有無で判定する検査を行います。

今後は、飼料の調製を経て、肉用鶏および採卵鶏への給与試験を実施し、生産性への影響を検証する予定です。本研究を通じて、養鶏農家の飼料コスト削減と地域資源の有効利用による持続的な生産体制の確立を目指します。



加工前の出汁かす



加工後の出汁かす



加工した出汁かすの京地どりへの給与試験